

4 段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営ビジョン 夢や目標をもち、主体的に学ぶ、粘り強い生徒の育成。

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な 数値目標等	具 体 的 な 取 組	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
				取組別	総合	
知 育	重点目標： 主体的な学びによる徹底した学力の向上 手段： 1 キャリア教育の視点を生かした教育活動を展開し、具体的な夢や目標をもたせる。 2 小中一貫性のある学習指導、ICTの活用を展開するために、小学校と連携した授業改善を推進する。 3 「個に応じた指導」を充実させることで、「できる・分かる」実感をもたせる。 4 英検の適切な級への受験を推進し、3級合格6名以上を目指す。 また、漢検においては、3級合格9名以上を目指す。	1について ・学びたい度 80%以上 ・外部人材活用 35回以上	1について (1) 1年生は、こすもす科での農家体験の体験を通し、さまざまな問題への意識高揚に繋げる。 (2) 2年生は、職場体験学習を通して、正しい勤労観や職業観を身に付けさせ、将来の生き方について考えさせ、自己実現を図る取組を行う。 (3) 3年生は、高校説明会を実施し、適切な進路選択や進路実現に向けて、キャリア教育の充実に努める。	3.0	3	○1年生の農家体験、2年生の職場体験、3年生の高校説明会・福祉体験をはじめ、全校でも、地域の協力のもと多くの農業体験等を実施した。体験を通して、地域の良さや働く意義等についても理解を深めることができた。また、各学年で計画的に生徒が将来の夢や目標を早い段階から考えられるような取り組みを行った。
		2について ・全員1回の研究授業実施 ・(タブレットを活用)	2について (1) 一人1回以上の研究授業(タブレットの活用)を通して授業の改善に努める。	3.5		○タブレットを活用した一人1回の研究授業を実施し、相互参観を行うことができた。令和7年度は、本校区が市の研究発表担当校であることから、小学校と合同研究推進委員会を行った。今後、小中一貫した研究をさらに推進していきたい。
		3について ・対外テストにおいて各教科地区平均より+5点以上	3について (1) 生徒の理解度や「つまずき」の把握に努め、職員間で情報を共有し、実態に応じた課題設定と授業を行うとともに、「個に応じた指導」を充実させる。 (2) 目的を意識しながら場面に応じてICTを活用し、「協働的な学び」や「生徒の表現活動」につなげる。	3.3		○校内でのテスト、対外テストの結果を分析し、補充的な指導や個別指導を行った。対外テストの結果も地区平均を大きく上回っており良好であった。授業内容の理解度に生徒と保護者間で、評価の差がみられることから、家庭学習のあり方について研究を進めていく必要がある。
		4について ・3級以上合格英検6名以上、漢検9名以上	4について (1) 英語科担当を中心に英検受験を推進する。 (2) 国語科担当を中心に漢検受験を推進する。	3.8		3級以上合格者は英語検定で7名、漢字検定で8名であった。今後も検定受験を推進していく。

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値 目標等	具 体 的 な 取 組	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等
				取組別	総合	
徳 育	<p>重点目標： 道徳科を要として、心の教育の充実</p> <p>手段： 1 校内、校外を問わず、自発的で元気なあいさつを目指す。 2 道徳教育や人権教育の充実に努め、豊かな人間性を育むことで、「いじめゼロ」「不登校ゼロ」を目指す。 3 一人一人に寄り添う支援や教育相談の充実に努め、自己決定させる場面を意図的に設けることで自尊心を高める。 4 生徒への支援を拡充し、長所を伸ばすことで前向きに取り組む困難を乗り越えようとする態度を育てる。 5 自発性・主体性を促す発達支持的生徒指導を推進し、生徒一人一人に自己指導能力を身に付けさせる。</p>	1について ・自発的あいさつ 100%	1について (1)生徒会と連携して、立ち止まり挨拶や返事等の自主的・自治的な活動を徹底する。 (2)その場での常時指導に努める。	3.1	3	○生徒の評価は高いが、全体的に声が小さいと感じる。また、保護者のアンケートでは、あいさつを含め基本的な生活習慣について生徒と保護者の認識に大きなずれが生じている。家庭での時間の使い方についても、啓発していく必要がある。
		2について ・いじめの解消 100% ・新たな不登校生徒 0 ・道徳科の時間実施率 100%	2について (1)生徒指導主事を中心に保護者や関係機関とも連携し、不登校の解消に努める。 (2)道徳の時間の100%実施に努める。	3.3		○毎月実施している「いじめに関するアンケート」では、いじめ等のトラブルは確認できなかった。 ○不登校については、定期的な訪問を行った。 ○道徳教育の充実に今後も取り組む。
		3、4について ・常時相談と教育相談期間の設定	3、4について (1)一人一人が大切にされる学校づくりを目指し、職員と生徒の間関係醸成を図りながら、信頼づくりに努める。 (2)生徒一人一人にあせらずじっくり対応し、自己決定させる場面を多く設定し、発達支持的生徒指導を意識しながら指導を行うように努める。	3.1		○生徒一人一人に、常時声かけを行うとともに、学期に1回全員を対象に教育相談を行っている。今後も信頼づくりに努める。次年度は、養護教諭との相談にも取り組む。 ○悩みを抱えている生徒には、自己決定の場面を設定し、じっくり時間かけて取り組んでいる。
		5について ・生徒会活動や学校行事の生徒主体の活動 ・ボランティア活動の充実	5について (1)実行委員会等の指導・支援を通して、生徒一人一人が学校行事やボランティア活動への自発的・主体的行動を促す。	3.5		○学校行事やボランティア活動へ自発的・主体的に取り組んでいる。本年度は、生徒会のロゴマーク制作、高齢者施設へのメッセージカード送付、地域行事の準備・参加など積極的な取組がみられた。今後は、地域行事への企画段階からの参加や生産した作物の販売等にも取り組ませたい。
		重点目標： 健康・安全教育、体力・競技力の向上	1について ・ネット上のトラブル 0 ・平日、7時間以上の睡眠 80%	1について (1)家庭でのネット環境等に関するアンケートの実施と実態把握に努める。また、結果について情報を発信するとともに、家庭でのルール作り、睡眠時間7時間以上確保等の協力を求める。		3.0
手段： 1 家庭でのネット、ゲーム、スマホ等の使用時間について生徒・保護者への啓発を継続して行うことで、7時間以上の睡眠時間の確保を図る。 2 体力向上プランを基に体育的行事や部活動の指導の充実に努め、体力向上、競技力の向上を目指す。(Tスコア50以上35項目以上、県大会出場)	2について ・Tスコア 50以上35項目以上 ・部活動県大会出場	2について (1)体育の授業で体力向上を考えて取り組ませる。 (2)部活動においても、それぞれの運動の特性に応じたトレーニングメニューに取り組み、体力の向上及び競技力の向上を図る。	3.3	○Tスコア50項目中34項目で平均を上回っている。毎回、体育の授業の最初に体力の要素を高めるためのトレーニングを実施できた。また、部活動でも体力や技能の向上を考えて活動できた。男子バレーは、県大会出場を果たした。		
3 授業開始・終了時の立腰指導を徹底し、日常生活の正しい姿勢づくりを図る。	3について ・立腰定着 100% ・虫歯治療率 100%	3について (1)立腰指導については、各授業の始めと終わり、集会等を通して、常時指導を行う。 (2)虫歯治療については、個別に指導したり、様々な場面において保護者への啓発を行う。	3.4	○立腰については、各授業の始めや終わり、集会等で行っている。習慣化されつつある。 ○治療に向けての啓発や個別指導を実施しているが、治療率100%が達成できない。保護者への積極的な働きかけを行っていく必要がある。		

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数 値目標等	具 体 的 な 取 組	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等
				取組別	総合	
食 育	重点目標： 健康な身体づくりのための「食」に対する意識高揚と実践力の向上。 手段： 1 残食0を基本とした給食指導の充実及び朝食の重要性を啓発することで朝食抜き0を目指す。 2 「弁当の日」の発達段階に応じた具体的な到達目標の設定と家庭への啓発により確実な実践（年5回）を目指す。	1について ・給食残菜0 ・朝食をとる生徒100%	1について (1)給食の残菜ゼロをめざす。 (2)朝食に関するアンケートの実施と考察を行い、実態を把握する。 (3)保健だより等を通して、食に関する情報の提供を行う。	3.4	3	○定期的に食育だより（通信）を発行し、食に関して啓発できた。さらに、外部講師と連携して、食に関する学習を実施することができた。次年度も、継続して取り組む。
		2について ・弁当の日確実な実践5回実施	2について (1)「弁当の日」実施について、家庭への協力を求めるとともに、事前の目標設定や計画を行い、確実に実施する。	3.1		○年間5回の弁当の日を主体的、計画的に指導、実施できた。しかし、取組には、生徒と保護者の認識に大きなずれが生じている。改めて、生徒・保護者に「弁当の日」の発達段階に応じた具体的な到達目標の設定と家庭への啓発を行う。
そ の 他	重点目標： 保護者や永久津小学校、地域との連携の推進 手段： 1 小・中管理職や主任の打合せ強化と合同職員会議の充実及び保護者や地域との連携強化を推進する。 2 学校だよりや学級通信の定期的な発行とホームページの積極的な更新を行う。 3 効率的な業務の推進を図る。	1について 小学校及び関係機関との連携	1について (1)円滑に合同行事を実施するため、小中合同の職員会の充実を図る。 (2)永久津いきいき協議会、永久津校区教育振興会等との連携を通して、生徒の地域行事への積極的参加を促す。	3.3	3	○小中合同の職員会や研修を実施したことで、円滑に合同行事計画の全実施ができた。令和7年度の永久津中校区学力向上合指定校研究公開に向けて、合同の研究推進委員会を実施できた。次年度は、合同研究会の充実を図る。健幸こばやし大運動会、永久津ドンと祭りなどに地域の一人として、多くの生徒・保護者が関わることができた。
		2について ・学校だより毎月発行 ・学級通信の定期発行 ・ホームページ更新70回	2について (1)学校だよりや各担任からの学級通信を定期的に発行させ、積極的に外部への情報発信を行う。 (2)ホームページの更新を行う。	3.4		○学校だよりや学級通信等の定期的な発行、ホームページの更新を通して、積極的に外部への情報発信ができた。今後も積極的に学校情報公開を進めていく。
		3について ・時間外勤務80時間以上0、45時間以上20%以内	3について (1)時間外勤務の縮小、会議の効率化、事務処理の効率化等を図る。	4.0		○目標の月当たりの時間外勤務時間80時間以上の職員ゼロを達成できた。45時間以上の職員ゼロを目指して、働き方改革をさらに推進していく。

**次年度の方
向性につい
ての校
長所見**

永久津中学校の教育目標及び学校経営ビジョンの実現に向けて教育活動を、保護者をはじめ、地域の皆様や関係諸機関の御支援、御協力をいただきながら取り組み、行うことができた。次年度は、アンケートで見えてきた「生徒と保護者の認識に大きなずれ」が生じている家庭での時間の使い方について、家庭との連携を推進していきたい。また、令和7年度の本中学校区の研究公開に向けた、小中合同の学力向上を図るための授業改善、思いやりの心を育みいじめや不登校0に向けた具体的な取組を進めていきたい。